

令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	1年	類型	
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材	新課程 家庭総合学習ノート(東京書籍)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4	家庭科の学び方 第1章 生涯を見通す	オリエンテーション 1 人生を展望する	学校家庭クラブ活動とホームプロジェクト (1) 人は生涯を通して発達する (2) 青年期の課題		○	◎	学習のねらい 1 学期は、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわりについて学び、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たしていくことの重要性について認識するとともに、生活設計を考えます。 2 学期は、被服実習を通して、衣服の構成、縫製技術について学びます。衣生活の文化に関心を持ち、必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようになります。また、高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて知るとともに、介護の基本を体験的に学びます。 3 学期は、子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて学ぶとともに、親の役割と保育の重要性を理解します。
			2 目標を持って生きる	(1) 人生は意思決定の連続 (2) 未来予想図を描く (人生の色イメージ) (家庭クラブ活動) 防災頭巾作成		◎	○	
	5	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる	(1) 人生100年時代を生きる (2) 一人で暮らす (3) パートナーと暮らす (4) 子どもと暮らす (5) 自分のライフスタイルを選ぶ	◎	○	◎	
			2 家族・家庭を見つめる	(1) 家族・家庭をどう捉えるか (2) 社会の中の家族・家庭 (3) 家族と法律	○	◎	◎	
	7	第7章 衣生活をつくる	3 これからの家庭生活と社会	(1) 家庭生活を担う (2) 家庭生活と地域・福祉	○		◎	
			4 被服を作る	(1) 被服の構成 (2) 採寸とサイズ (3) 被服製作の工程 【エプロン製作】①裁断	◎	○	◎	
	2 学期	8			【エプロン製作】②ポケット口	◎		
【エプロン製作】③肩ひも④すそ				◎		○		
【エプロン製作】⑤脇カーブ・後ろ脇はし				◎		○		
【エプロン製作】⑥ポケットつけ				◎		○		
9				”	◎		○	
				”	◎		○	
10				【エプロン製作】⑦前見返し	◎		○	
			【エプロン製作】⑦前見返し⑧ひもつけ	◎		○		
			【エプロン製作】⑨きんちゃく袋	◎		○		
			1 被服の役割を考える	(1) 高校生と衣生活 (2) 着るとは (3) 被服の保健衛生的機能 (4) 被服の社会的機能	○	◎	◎	
11		2 被服を入手する	(1) 被服の入手 (2) 被服と表示 (3) 被服の材料 (4) 被服材料の性能 (5) 被服材料の性能の改善	◎		○		
		3 被服を管理する	(1) 被服の手入れ (2) 洗剤と漂白剤の働き (3) 仕上げ、保管		○	◎		
		5 衣生活の文化と知恵	(1) 生活文化と被服 期末考査	◎	◎	◎		
12			(2) 繰り回しの知恵 (3) 世界の民族衣装	◎	○	◎		
		6 これからの衣生活	(1) 被服の生産と消費 (2) 被服の再資源化 (3) 環境に配慮した衣生活	◎	○	◎		
3 学期	1	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	(1) 超高齢社会の現状 (2) ライフステージとしての高齢期	◎		○	主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。
			2 高齢期の心身の特徴	(1) 老化と成熟 (2) 高齢期の健康と自立 (3) 高齢期の生きがいと生活課題	◎		○	
			3 高齢期の自立を支える	(実習) 介助をしよう		○	◎	
	4 これからの超高齢社会	(1) 介護をめぐる問題 (2) 高齢者と共に地域をつくる	○	◎	◎			
	2	第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む	(1) 次世代の育成 (2) 青年期の責任 (3) 命の誕生		◎	○	
2 子どもの育つ力を知る			(1) 子どもの育つ力	◎		○		
3			(2) 生まれつき持っている能力 (2) 身体の発達 (3) 心の発達 (4) 子どもと遊び	◎		○		
		3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ	(1) 子どもの発達と保育 (2) 子どもの生活と保育		○	◎		
		5 これからの保育環境	(1) 現代の課題 (2) 地域や社会の関わり	○	◎	◎		

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 1、2年次に週に2時間の授業があります。
- 1年次ではおもに「人の一生と家族」「高齢者の生活と福祉」「衣生活」「子どもと保育」について学習します。
- 単元や学習内容により、授業のすすめ方は様々です。時間毎に示される学習目標に到達できるよう、目標をもって授業に臨みましょう。
- 一般的・総合的な学力・知識が求められます。少なくとも中学校までのすべての教科の学習内容を理解しておきましょう。また、社会の変化や情報に関心を持ちましょう。
- ノートは板書だけでなく、口頭で示された重要ポイントも記しておく、復習する時や実習・実践の時に役立ちます。
- 学習した内容について家族と話し合ったり、家庭で実践することで、思考が深まり知識や技術が身に付きます。

【家庭学習】

- 日々の生活に関心をもつとともに、積極的に家事に参加し、家族の一員としての役割を果たしましょう。
- 日々の生活の中で見つけた課題を、学習成果を活用し、解決しましょう。(ホームプロジェクトの実践)

【定期考査】

- 学期末に考査を行います。考査範囲が広いですが、まんべんなく復習しましょう。
- 重要単語だけを暗記するようなことはせず、言葉の意味や背景、課題などと合わせ総合的に理解をするよう努めましょう。
- 板書だけでなく、メモを活用し、授業内容を復習しましょう。
- 実習内容を振り返り、実習のポイントとその理由について復習しましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、実習ノートの整理状況を次のように評価します。 ・定期考査では、主に①知識・技能②思考・判断・表現についての観点から評価します。 ・③主体的に学習に取り組む態度については、出席状況、毎時間の授業に臨む姿勢や提出物の内容、実習の作品の出来栄などを毎回評価をしていきます。	
評価の基準	1 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。)
	3 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価